

第3回高知市総合計画審議会 会議録（要約版）

- 日 時 令和2年9月1日(火) 13時30分から15時30分まで
- 場 所 高知市役所本庁舎 6階大会議室(611・612・613 会議室)
- 出席者
 - 〔委 員〕石塚会長，東森副会長，西森委員，松本委員，中屋圭二委員，中西委員，柳林委員，田村委員，藤田委員，藤本委員，古谷委員，宮脇委員，松岡委員，神原委員，那須委員，田中委員，黒笹委員
 - 〔高知市〕中澤副市長，松島副市長，森田総務部長，林総務部政策担当理事 他23名

1 開会

(司会)

本日はお忙しい中，お集まりいただきまして，誠にありがとうございます。

ただいまから，第3回高知市総合計画審議会を開催いたします。私は，司会を務めます政策企画課の柴野と申します。よろしくお願いたします。

はじめに，本日はお一人到着が遅れるとの連絡をいただいておりますが，現時点で委員20名の内16名が出席しており，委員の過半数の出席がありますので，本審議会条例第6条第2項の規定により，本会議が成立していることをご報告いたします。

それでは，開会にあたりまして，中澤副市長よりご挨拶を申し上げます。

2 開会あいさつ

(中澤副市長)

本日は大変お忙しい中，第3回審議会にご出席いただきまして，誠にありがとうございます。また，日ごろから市政にご理解ご協力を賜っておりますことに，この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

連日報道されております新型コロナウイルス感染症につきましては，県内で125名の感染が判明している状況でございます。昨日，県市連携会議を開催し，今後も県市で力を合わせて，新型コロナウイルス感染症対策をはじめ，南海トラフ地震対策等の喫緊の課題に取り組んでいくことを確認したところです。

また，本日は広く国民が台風，高潮，津波，地震等の災害に対する認識を深め，対処する心構えを準備する啓発の日として制定された「防災の日」です。防災対策には本市も鋭意取り組んでおりますが，先日台風9号が発生しており，西日本への影響も心配されておりますので，皆様にもご留意いただきたいと思っております。

さて，7月に開催した第2回審議会では，委員の皆様から新型コロナウイルス感染症に関することやSDGsに関すること，都市部と中山間地域の特性を活かしたまちづくりに関することなど，幅広い分野において専門的な知見に基づく貴重なご意見をいただきました。

本日は，いただいたご意見を原案に反映するものと，施策展開にあたって参考にさせていただ

くものというように整理してまいりましたので、整理内容を基にさらに議論を深めてまいりたいと考えています。パブリック・コメント前の最後の審議会ということで、実質、今回が原案に対するご意見をいただく最後の会議となりますので、委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

3 成果指標の目標値の設定について

(石塚会長)

成果指標の目標値の設定について、事務局から説明をお願いいたします。

(大宮政策企画課長補佐より説明)

(宮脇委員)

施策1の成果指標「保育間伐実施面積」について、地籍調査が未完了であれば、森林の所有者等も分からないので、間伐の実施が困難であると思いますが、鏡・土佐山地域における地籍調査の進捗状況はどうなっているのでしょうか。

(宮地農林水産部副部長)

鏡・土佐山地域は地籍調査が完了しています。

また、施策1の成果指標を「搬出間伐実施面積」から「保育間伐実施面積」に今回変更いたしました。変更理由は、この施策では、森林の持つ水源かん養や二酸化炭素の吸収等の多面的機能を発揮させるため、適切な森林管理に取り組むこととしており、その成果を測る指標として、より適していると考えたためです。

(宮脇委員)

山間部では、台風等による倒木がそのままになっている状況が見受けられますので、先ずその対策が必要だと考えています。併せて、潮江の孕地区や烏帽子山の周辺にも民有林があるので、そこでの地籍調査の実施も含めて検討していただきたいです。

(田中委員)

【資料1】の成果指標一覧表を見ると、上下水道局が大変頑張っているという印象を受けます。

公道に布設された水道の鉛管の撤去はどのくらい進んでいるのでしょうか。また、いつ頃までに鉛管がなくなるかなど、今後の見通しを教えてください。

(森岡上下水道局次長)

調べまして、後ほど事務局を通じて回答させていただきます。

(田中委員)

併せての質問ですが、水道管の耐震化は進んでいるようですが、下水道管の方はどうでしょう

か。災害時に下水道管が破損すると避難所でトイレが使えなくなるなど、様々な支障を来すこととなります。下水道管の耐震化の進捗状況や整備計画について教えていただきたいです。

(石塚会長)

【資料2】に各施策に対する満足度と重要性の調査結果が示されていますが、各施策の成果指標は、この結果を踏まえたうえで、特に「検討領域(満足度と重要性が共に低い)」にあるものをより強化していくというシナリオの下、設定されているのでしょうか。

(西成総務部参事)

これまでの調査結果を踏まえ、施策を立案し、施策の目的の達成度を測るのにふさわしい成果指標を設定したところです。

(松本委員)

市民意識調査結果における施策の重要性の高い・低いの見方について、感度の良い一部の方だけがその重要性に気付いており、全体的にはまだ潜在的な状況で発現に至っていないため、重要性が低いという結果になった施策もあるように感じます。新型コロナウイルス感染症の影響等、外的要因で重要性の高低に大きな変化が生じたときこそ、そういった潜在的な部分を見落とさないように留意していただきたいと思います。

また、【資料1】の成果指標一覧表を見ていると、成果指標には、目標達成が近いと考えられるものと、そうでないものがあるように見て取れます。普及啓発やレビューの際は、目標達成の見込みを基に整理した表を使用する方が、市民ニーズからみた重要度の議論と、施策の実現状況からみた重要度の議論の相違を区別して考えやすくなると思います。

(西成総務部参事)

今後の見せ方についての部分になると思いますが、市民の皆様に分かりやすく見ていただきたいという考え方の下、原案を作成したところであり、後期基本計画の概要版の作成にあたっては、見せ方を工夫したいと考えています。

(西森委員)

【資料1】のNo.21「性別に関係なく、能力を発揮できていると感じている市民の割合」や、No.22「男女の地位が平等になっていると感じている市民の割合」の最終目標値を45パーセント、20パーセントとしています。当然、これで良いという意味ではなく、現実的なところで設定された数値であると思いますが、市民への説明はどのように考えているのでしょうか。

(明坂市民協働部副部長)

これまでの伸び率を踏まえて設定した目標値であり、この目標値を達成しても決して満足するものではありませんし、100パーセントをめざして取組を進めていく考えです。

(松岡委員)

【資料1】のNo. 1「保育間伐実施面積」について、成果指標を「搬出間伐実施面積」から変更したということですが、成熟した森林が増加していく中、これまでは搬出間伐ということで、木材を搬出することで森林が手入れされてきた部分があります。保育間伐は搬出しませんので、これまでの流れに逆行するように感じます。

(宮地農林水産部副部長)

先ほどご説明した変更理由の補足になりますが、令和元年度から開始された森林経営管理制度の取組を進める中で、これまで放置されてきた森林をいかに手入れしていくかを考えたとき、作業道が未整備の箇所が多いことなどから、保育間伐の方が適していると判断したためです。

一方で樹齢構成の適正化という観点もありますので、保育間伐だけではなく、搬出間伐も同時に進めていきたいと考えています。

(松岡委員)

対象区域を変更したということでしょうか。

(宮地農林水産部副部長)

高知市の森林区域ということで、対象区域に変更はありません。

(西森委員)

【資料1】のNo. 125「15歳から24歳までの県外への転出超過数」について、若い世代は一度県外へ出ることも必要だと考える大人も多いと思いますし、15歳から24歳までというのは、実際に多くの方が県外へ転出する時期だと思います。

この成果指標は、15歳から24歳までの方を県外へ出したいくないというように読めてしまいますが、この年齢層を対象とした意図を教えてください。

(林総務部政策担当理事)

本市の社会動態としては、15歳から24歳までの年齢層の県外転出が突出して多い状況であり、この年齢層の転出を一定抑制したいという考え方で設定しています。

(西森委員)

若い世代を転出させたくないというメッセージを市として出しているということでしょうか。

(林総務部政策担当理事)

アンケート調査において、大学卒業後に高知に戻りたいと考えている学生が、戻れていない現状があることも把握しておりますので、個々人の希望を叶える形で、高知に戻りたい方が戻れるように、仕事・住まい・暮らしに係る様々な施策を展開していきたいと考えています。

(西森委員)

例えば、大学卒業後の「22歳から30歳まで」という設定であれば、もう少し理解できますが、「15歳から24歳まで」という設定では、若い世代が一度県外に出ると、戻ってこないのでは転出させたくないというメッセージに受け取られかねないと感じますので、工夫が必要だと思います。

(東森委員)

同じ成果指標についてですが、年齢区分は、学校卒業後に進路を選択する年齢と一致しており、問題ないと考えています。

重要なのは、この指標に合致した取組、つまり県内に残ることを希望する若い世代の受け皿を用意するための取組が施策52に記載されているかどうかという点であり、記載されていないことが原因で、成果指標で年代を分けた意図が感じられないのだと思います。

この年代を主な対象としている施策25～28に、若い世代が高知市でどのように人生設計をし、生きる力を発揮していくのかという受け皿となる部分の書き込みが不足していると思います。

(石塚会長)

「高知市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」の実現に向け、若い世代に対し、いかに働く場や幸せに生活できる場を提供していくかという視点を持って、必要な対策を打ち出していくことが重要であり、市民に「高知市のありたい姿」を示せる成果指標であれば良いと思います。

成果指標の直近値の取得年度に平成28年度のものや平成30年度のものがあります。政策の効果検証を毎年行い、それに応じて別の事業を打ち出していくことが重要ですので、毎年数値を見える化することを意識し、数年に1回しか効果検証できないということにならないように、やり方を検討していただきたいと思います。

(古谷委員)

数値を見える化することは非常に大事だと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響で観光業や関連産業には、この先何年間かは非常に苦しい状況が続くと考えています。【資料1】の産業分野の成果指標の中には、コロナ禍で落ち込んだ数値を5年間で回復させる想定としているものがありますが、よさこい祭りや高知龍馬マラソンの中止に伴う経済的損失もあり、なかなか厳しいというのが実感です。

こうした中、落ち込んだ各種数値が、今後どのくらいで回復し、上昇していくかといった見込みを資料にして公開していただけたら、観光業を営む私どもにとっても、事業を続けていく糧となりますので、ぜひそういった部分の見える化も検討していただきたいと思います。

(石塚会長)

観光地域づくり法人(DMO)の仕組みの中で、観光経済の見える化も可能となっています。行政と一体になって、どのように観光業の見える化をしていくか議論できれば良いと思います。

それでは、次の議事について事務局から説明をお願いいたします。

4 第2回審議を踏まえた修正案の検討

(大宮政策企画課長補佐)

第2回審議会におきまして、様々なご意見をいただき、誠にありがとうございました。ご意見については、計画原案に反映させていただいたもの、実施計画や各種行政計画の参考とさせていただくもの、今後の検討課題とさせていただくものなどについて、整理をさせていただきました。

【資料3】の意見整理表は、いただいたご意見を「総論」に係るご意見と、「各論」にあたります「環」ごとのご意見に整理し、6つの施策の大綱別に分類したものです。本日は、この意見整理表の順に説明いたします。

●総論（大宮政策企画課長補佐より説明）

(松本委員)

【資料4】の1ページの「SDGsの活用」を修正したことで、事業主体として管理を行いながらしっかりと実施していくことが表現されたと思います。

その中で気になったのは、「事務事業」という表現です。この言葉には、市民や事業所におけるSDGsの取組を促進する趣旨も含まれていると思いますが、語感として行政だけで取り組むように受け取られるのではないのでしょうか。市が主軸として取組を実施し、加えて事業所等がSDGsに取り組みやすくなるように支援するという表現にした方が、SDGsの取組が高知市全体のものになると思います。

その一環として、SDGsの認知度は低いという市民意識調査結果も出ていますので、認知度を向上させる取組をベースとしていただければ良いと思います。

(西成総務部参事)

「事務事業」には、SDGsの普及啓発活動も含まれていますが、ご指摘のとおり行政的な言葉ですので、役割分担もあることが分かりやすくなるよう、表現を検討させていただきます。

SDGsの認知度の低さはある程度予想していた結果であり、いかに啓発していくかということが重要だと考えています。事業所向けのセミナー等を通じて普及啓発に取り組んでまいります。

(松本委員)

成果指標の目標設定方法には、積み上げによるものと、ありがたい姿の「べき論」によるものの両方があると思います。

前回の審議会では那須委員からご意見があったように、SDGsには、本質的な部分として具体的な達成目標が示されています。高知市としてめざすところを考えると参考にするという視点で、SDGsを活用していただきたいと思います。

●共生の環，安心の環（大宮政策企画課長補佐より説明）

(東森委員)

私が【資料3】No. 7で提案させていただいていることは、高知県の経済に若い世代のアイデアや行動力、感性を反映させていきたいという趣旨ですので、共生の環というよりは地産の環に該当するのではないかと考えています。

高知商業高校は、今年度の修学旅行の行き先を東京から県内に変更し、県内の観光ルートを開拓するなど、生徒が県内各地を訪れ、本県の産業を勉強するという内容に切り替えています。観光業の未来は厳しいという意見もありましたが、こういった若い世代とコラボすることで観光の地産地消化も可能になるのではないかと考えています。

地産の環の施策に、若い世代との連携を盛り込んでいただきたいと思います。

(西成総務部参事)

高知商業高校との連携事業には、地産外商という視点も取り入れています。高知への愛着を深めてもらいたいという意図もあります。

地産の環への盛り込みについては、別途検討させていただきますが、実際の事業レベルでは、商業・産業分野における若い世代との連携は進んでいる状況であり、今後もそういった視点を活かせるよう取り組んでまいりたいと考えています。

(神原委員)

ある指標が良くなれば、別の指標も良くなるということはたくさんあると思います。そのような指標間の相関関係を見える化していけば、ボトルネックが明らかになると思います。

(中西委員)

前回の審議会での意見について、修正していただいたところは問題ないと考えています。

施策19の成果指標である「自立支援プランの目標達成件数」と「就労支援プログラム利用者の就職率」について、目標値が微増していますが、この指標は数値が増えることが良いことなのか減ることが良いことなのか、言い切れない部分があると思います。

政策6の基本目標である「住み慣れた地域で、自分らしく暮らせるまち」から考えると、この指標の10年後の数値は減る方が良いでしょうにも感じますが、どのような考え方で目標値を設定されたのでしょうか。

(川村健康福祉部副部長)

生活困窮者自立支援制度は、平成26年度に全国に先駆けて本市が開始いたしました。相談件数は、この先について一定の傾向が見えてきましたが、未だ制度が周知され、浸透した状態にはなっていないと考えています。

そのため、現段階ではまず生活支援相談センターや生活困窮者自立支援制度の周知に取り組み、相談件数を伸ばすことが必要だと考えていますので、増加傾向で目標値を設定いたしました。

●育みの環、地産の環（大宮政策企画課長補佐より説明）

(柳林委員)

I C T及びプログラミング教育については、新たに項目を立てて書き込んでいただき、充実したものになったのではないかと考えています。どこまで書き込むかについては、例えば、高知市は高知県の中核を担いながら生徒数の少ない小規模校もありますので、そのような小規模校の活用等を書き込んで良いのではないかとこの気持ちもありますが、全体としては問題ないと思います。指導方法や教材の活用についても、産学連携を踏まえ非常に良く書いていただいたと感じています。

施策 24 の成果指標である「高知チャレンジ塾の登録者充足率」について、前回の基本計画の改訂時にも「高知チャレンジ塾の登録者数」という成果指標について意見をさせていただきましたが、チャレンジ塾は要保護世帯を中心として学習の場を設ける取組ですので、増加を目標とする指標で良いのか疑問があります。

指標の説明を見ると「受入可能生徒数に対する参加申込をした生徒の割合」となっており、数値が増加する方が良いということは要保護世帯の子どもが増加する方が良いのだという見方もできてしまいます。

学習機会が増えるのは良いことだと思いますし、参加を希望しているのに現実として受入れが難しいという事態を生じさせないようにするという意図であれば理解できますが、今回、参加申込をした生徒の割合が増えることが良いとした理由についてお聞きしたいです。

(弘瀬教育次長)

詳細を確認し、後ほど事務局を通じて回答させていただきます。

(田村委員)

前回の審議会での意見を反映していただいた【資料 4】の施策 25 の「保・幼・小連携の充実」の重点的な取組についてですが、2 年前に策定された高知県保幼小接続期連携プランでは、「アプローチ・カリキュラム」ではなく、「5 歳児後半の年間指導計画」という表記となっています。

「アプローチ・カリキュラム」が間違っているということではなく、現場の教員等への分かりやすさも考慮し、「アプローチ・カリキュラム、いわゆる 5 歳児後半の年間指導計画」という表記を検討していただければと思います。

(藤田委員)

前回の審議会で見出した施策 31 への「創造」という視点の反映について、今回、「まんが文化の振興」の項目に反映していただきましたが、まんが文化だけではなく、芸術文化全般においてゼロから発想していくようなクリエイティブな考え方が、産業等の他分野にも影響を与えていくのだと思います。既存の文化を推進していく視点は以前からありますので、芸術文化の中で新たな価値をつくっていく視点を盛り込んでいただきたかったと思います。

難しいかもしれませんが、まんが文化だけでなく芸術文化全般の項目に「創造」という表現を入れることができれば良いと思います。

施策 32 の観光分野における文化財の活用については、今回の修正案で問題ないと思います。

(貞廣教育委員会理事)

ご意見のとおり、芸術文化には創造という視点がありますので、今回の修正では、まんが文化の振興の部分で「創造」の文言を入れています。

いただきましたご意見の芸術文化全般の創造というのは難しい部分もありますが、創造につながるような場の提供といった取組など、何らかの形で原案の修正を検討したいと思います。

(藤田委員)

原案にアーツマネージャーの取組に関する記載がありますが、実際にいるのでしょうか。

(貞廣教育委員会理事)

実際は、高知県が実施しているアーツカウンシルのようなレベルに至っていない状況ですので、今後は、魅力を発信できる職員育成に努めなければならないと考えています。

(古谷委員)

修学旅行の行先が高知県内へ変更されている状況なので、改めて高知に目が向けられているように感じました。このコロナ禍が転じて、県内の小中学生が地元で目を向ける機会が増え、地元の良さを理解していただけるのではないかと期待しています。

私自身もこの機会に県内旅行をしましたが、これまで気付かなかった場所や、近いからいつでも行けるだろうと、出向いていなかった場所に足を運ぶことで、高知の良さが分かる機会になりましたので、ぜひこうした機会が増えると良いと思いました。

(藤本委員)

地産地消も大切ですが、民間企業が学生と一緒に商品開発するような、産学連携などによる地産外商も大切だと思っております。また、お客様に高知に来てもらい、お金を落としてもらうことで地産が生まれると考えています。

私自身も高知商業の学生と一緒に商品開発等を行っていますが、短期的な視点ではなく長期的な視点で経済の仕組みを一緒に学びながら取組を進めており、生徒の力となるだけでなく、私たちが活力を貰っています。

このような様々な立場の人とつながる取組を通じて、経済と人とのつながりをつくっていかねばならないと感じているところです。

また、SDGsの推進にあたっては、基本として、人に対する優しさが大事だと思っております。人に寄り添う意識があってはじめてSDGsの推進につながっていくのだと思います。

(宮脇委員)

前回の審議会で、生産としての農業と生業としての農業の見方が分離されているのではないかという意見を出ささせていただきました。一般的には量販店で農作物を見ても生産に思いを馳せる方は少ないと思いますし、農業に関する体験学習も小学校までであり、年齢を重ねるに連れて生産現場を意識しない方が増えている現状もあると思います。現実として、バイパス沿いの田んぼ

や市街地にある果樹園にごみを捨てていくような人もいます。

意見整理表の No. 22 でご回答いただきました「第 13 次高知市農業基本計画」は、市内の二つの J A ならびに各生産者のご意見を反映し、さらに S D G s の視点も踏まえた令和 2 年度から 3 年間の計画です。後期基本計画ではそれらの行政計画も踏まえ原案を作成していただいていると思いますので、地産の環に対する修正意見はありません。

特に、高知市は生産緑地制度という街中にも農地を残し、さらにその農地が防災用に緑地として活用できるような取組を行っていますので、今後はこのような取組を通じて、農業の振興に取り組んでいきたいと思ひます。

●まちの環、自立の環（大宮政策企画課長補佐より説明）

（神原委員）

成果指標の数値について、どのような集団のデータを集計しているのかという視点が重要です。どのような人たちが数値の中に入っているのかという視点が抜けると、市としてのポピュレーションアプローチやハイリスクアプローチといった方向性の選択に大きく影響しますので、全体をいかに細やかに見ることができのかが大事です。

先ほど議論にあった目標値の増加と減少のどちらが良いかという話についても、例えば、施策 9 の「DV を受けたときに相談した市民の割合」は、相談したということは既に DV が起きているということですので、DV の発生件数と併せて判断する必要があります。

現在はアンケートを実施する場合も郵送だけではなく、アプリやインターネット等の様々な手段がありますので、取得できる様々なデータを取捨選択しながら指標を検討していく必要があると思ひます。

数値目標を設定すると、数値を上げることだけが目的化してしまうので、数値が増えることが市民にとってどういうことなのか、市民のどのような行動と関連するのかという視点で、他都市の事例を研究しながら施策を実施していただければと思ひます。

（石塚会長）

現在、文部科学省から地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン(案)が公表されており、そのガイドラインでは、地域課題の解決に向けて、産学官民の連携を強化し、エビデンスに基づき現状・課題を把握したうえで、しっかりと議論しながら今後の方向性を詰めていくというような実効力が求められています。

そのようなガイドラインについても政策立案の参考としていただきたいと思います。

（那須委員）

先ほどの数値目標の話に関連してですが、例えば、施策 25 の成果指標の「自己肯定感の高い児童生徒の割合」と「不登校児童生徒の割合」であれば、不登校児は自己肯定感が低い傾向にあるというように、数値目標は関連しているものだと思います。

数値はどのようにも読み取ることができます。数字のみを重視し過ぎると間違ふことも多いの

で、先ほどの例でいうと、不登校児は自己肯定感が低い傾向にあるのだとしたら、なぜ低いのかということまで考えるなど、全体を構造的に見ることが数値目標を施策に活かすために必要だと思います。

また、人口減少について、最近実施されている地域留学等の具体的な取組を積極的に行っていかなければ、人口減少は抑制できないのではないかと思います。例えば、高知県内では地域みらい留学に四万十高等学校が登録し、嶺北高等学校が申請しています。

また、現在リモートを利用した働き方があり、それを活かして都市圏の企業を地方に誘致した事例もありますので、高知市も地方都市として積極的な取組を行うことが必要だと考えています。

(黒笹委員)

施策 31 の「まんが文化の振興」に関連して、コロナ禍で大都市から地方都市への流れが生じている中で、高知市らしい取組として漫画家の高知市への移住誘致を積極的に行い、人の流れを変えることができると考えています。

例えば、ある程度知名度のある漫画家を、漫画家という職業に敬意を込めて移住誘致したり、アシスタントの方に有益な場を提供したりすることで、東京と高知を行き来する漫画家が増えるかもしれませんし、若い世代の地元定着やまんが好きな方の移住促進につながるかもしれません。

まんが文化という他地域にアドバンテージがある分野を推進することで、歴史文化や芸術への市民への関心も相対的に高めることができるのではないかと思います。

(中屋委員)

計画として全体的にチャレンジ性や夢がもう少し感じられると良いと思います。困っている人を標準的な生活にするための保障はしっかり行われると感じますが、一方で、将来を見据えたときに、日々の生活がわくわくするような夢が計画に表現しきれていないように思います。極端な話ではありますが、高知市からパラリンピックの代表選手を出すというような目標があれば、市民は夢を感じると思います。

フォローする目線ばかりになるとそれ以上の計画にはならないので、市民が将来に希望を感じられるような計画としていただけたらと思います。

(石塚会長)

これまでの3回の審議会におきまして、委員の皆様から様々なご意見が出揃ってきたのではないかと考えております。

そこで、第4回審議会につきましては、本日の審議を踏まえた修正等を確認していただくとともに、答申案の確認を行う会議とし、本日のご意見や、この後説明がありますパブリック・コメント等を受けた原案の修正につきましては、私と事務局に一任させていただきたいと思います。

また、答申案につきましては、委員の皆様にも事前にご意見をいただき、案を固めていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

5 パブリック・コメントの実施について

(大宮政策企画課長補佐から説明)

- ・公表資料：2011 高知市総合計画 後期基本計画(原案)
※第3回審議会の意見を可能な限り反映したもの
- ・実施期間：令和2年9月24日(木)～10月23日(金)

6 閉会あいさつ

(松島副市長)

委員の皆様方におかれましては、大変活発にご議論を賜りまして誠にありがとうございます。

ご議論の中でもありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、これまで表面化していなかった様々な格差やデジタル化の遅れなどの問題点が浮かび上がってきたと感じています。本年7月に閣議決定されました「経済財政運営と改革の基本方針2020(骨太の方針2020)」や「まち・ひと・しごと創生基本方針2020」等においても、ウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据えた対策が盛り込まれており、社会の変化に対する迅速な対応が求められているところです。

本市といたしましても、委員の皆様から賜った様々なご意見を適宜原案に反映させていただくとともに、今後の市政運営の参考にさせていただきたいと考えております。

本日はご多忙の中、誠にありがとうございました。

7 閉会